

日本鐵鋼協會記事

昭和 28 年度第 2 回理事會報告 日時：28—4—22 (水) 16 時 30 分—18 時 30 分。會場：協會々議室。
出席者：○(會長)○伊藤隆吉，(副會長)×小林佐三郎，(理事)○石原善雄，○內川 悟，○菊地浩介，×佐藤忠雄，
×田畑新太郎，×湯川正夫，○橫山均次。(前會長)○俵 國一，○松下長久×三島德七，○山岡 武，○田中清治。
(監事)○石田四郎，○石田 稔。(常務委員)×阿部信男，×芥川 武，○伊木常也×岡本正三，○俵 信次，西村吉
太郎，×毛利獻三郎，×柳 武。(研究部會委員長)×淺田 讓，大原久之，×殿村秀雄，×松永陽之助(主事) 臨
時代理，×吉崎鴻造。

報告事項 [I] 昭和 28 年度第 1 回編集委員會 日時：昭和 28 年 3 月 24 日(火)。16:30~21:30。會場：
協會々議室。出席者：(理事) 菊地浩介君，橫山均次君。(常務委員) 岡本正三君。〔編集委員〕池田義孝君，內山道
良君，澤 繁樹君，濱本甲子生君，松下幸雄君，三橋鐵太郎君，安田洋一君，山木正義君，吉田道一君。(主事) (代)
三宅運秀。

報告事項 1. 昭和 28 年 1 月號は 2 月 26 日峻成發送済み。2. 同 3 月號は 3 月 23 日峻成(特輯講演大要)
目下發送中。3. 同 2 月號は印刷の都合により，4 月 10 日頃峻成の豫定。此の旨 3 月號誌上に豫告す。4. 英文
「鐵と鋼」は 3 月 6 日峻成。

(協議事項) 1. 5 月號原稿選定の件(別紙の通り)。2. 英文「鐵と鋼」配布先の件(國內配布先は維持會員全
部と役員全部にするかは理事會にて協義のこと，各國への配布先はその國の主要機關へ問合せの上決定) 3. 春期講
演大會，各會場司會者選定の件(決定別紙の通り)。〃見學工場見學記事依頼者選定の件(決定別紙の通り) 4. 「昭
和 28 年會誌内容の頁數配分」決定別紙の通り。5. 「外國雜誌 Index の掲載の件」決定。別紙割當により編集委員
各自擔當毎月原稿作成のこと。

[II] 第 38 回通常總會 日時：昭和 28 年 4 月 6 日 13:00~14:00。會場：東京大學工學部第 2 號館第 21 號教
室。出席者：正會員 111 名。委任出席者：4,470 名。出席總員：4,581 名。總會次第(1) 開會挨拶 伊藤會長。
(2) 評議員選舉(立會人) 川上義弘君，梅津七藏君。(3) 事業報告(佐藤理事)(4) 昭和 27 年度收支決算報告(石
原理事)。(5) 定款中改正(會費値上げ a. 正會員年會費 1,000 圓，學生會員年會費 600 圓とする件。b. 此の値上
げは昭和 28 年 1 月より實施のこと)の件，會長に代つて石原理事説明，滿場異議なく可決。(6) 昭和 28 年度收支
豫算報告(石原理事)(7) 監事監査報告(志村監事)。(8) 評議員選舉の結果報告，川上義弘君(全員異議なく原案
に賛成，原案通り決定)。(9) 表彰式。

[III] 第 45 回講演大會 日時：昭和 28 年 4 月 6~7 日(講演) 8~9 日見學會。會場：東京大學工學部第 2 號
館 4 教室(3 階)。講演數，第 1 日 56 第 2 日 60。大會出席申込者 596 名。工場研究所見學先 27 ヶ所。見學者數
407 名。

[IV] 映寫會 日時：昭和 28 年 4 月 7 日。12:30~13:05。場所：講演第 1 會場。映畫 日曹製作「砂鐵」觀覽者
約 250 名。

[V] 懇親會(日本金屬學會，日本鐵鋼協會合同)日時：昭和 28—4—8。16 時~19 時。會場：文京區本富士町
學士會館。出席者：(98 名(內 鐵鋼協會側，招待者共 57 名) 賓客として，俵 國一，桂 辨三，金子恭輔，村上
武次郎，川上義弘，石原米太郎，松下長久，黒田泰造，(本多光太郎，井上匡四郎兩先生缺) 多田禮吉，青山新一，
松繩信太 各先生並びに本年度表彰者を招待。經費特別援助會社(別紙)

[VI] 工業技術院委託の「航空機用鋼索工業標準原案」は昭和 28 年 3 月 23 日工業技術院に提出済。

[VII] 關西支部部長更迭，新支部長 齋藤省三君(大阪府立浪速大學工學部長 28—2—28)

[VIII] 本會は日本工學會鑛業金屬部門の理事學會として選舉せられた(自昭和 28 年 4 月~至昭和 30 年 3 月)の
で理事として前會長山岡武君を推薦して，その就任を依頼した(28—4—10 日本工學會に回答)

[IX] 主事臨時代理依頼 吉崎鴻造君に當分の間臨時代理を依頼した。尙同君に常務委員を依頼すること，承認。

〔X〕 寄贈圖書 俵 孫一，俵 國一共著「我が家の歴史」俵國一殿寄贈。東北電力株式會社編「東北電力と工場誘致」會社々長 内ヶ崎贊五郎殿寄贈 日本學術會議編「日本科學者總覽」日本學術會議殿寄贈

協議事項 〔I〕 秋季講演大會開催地及び期日決定の件 開催地—京都，期日 10月 17~18 (講演) 19~20 見學に決定。〔II〕 英文「鐵と鋼」内地配布先の件 名譽會員，維持會員，大學 (刊行物交換) 決定。〔III〕 關西支部規則變更に付その承認申出の件 承認。〔IV〕 昭和 28 年 3 月分收支決算審議の件 承認。〔V〕 入退會者その他會員移動に關する件 承認。

	名 譽	維 持	贊 助	正 學	計		
昭和28年2月末數	10	118	538(口)	41	4,551	169	4,889
入 會 者					+ 56	+ 13	+ 69
退 會 者					- 9		- 9
死 亡					- 1		- 1
轉 格				+ 1	- 1		0
28 年 3 月末總數	10	118	538(口)	42	4,596	182	4,948

(474 よりつゞく)

98頁よりつゞく)

各種諸般に亘る研究設備等。圖書は約 10 萬冊あるが幸に戦災を免れた。本所は我國に於て最も輝かしい傳統，陣容及設備を持つてゐることは衆知のことである。研究の範圍は科學の基礎，應用に關する研究，中間工業試験等全般に關聯しており，名實とも優良な綜合研究所である。時間その他の關係から主として次の見學を行つた。

黒田研究室に屬する鋼製ピストリング，イオン加電壓金屬防蝕法，火焰燒入及熔着等，佐藤研究室に屬する變態應力の理論及實驗，飯高研究室では電子顯微鏡及電子

回析による耐蝕性金屬表面並びに触媒體の究明，大越研究室，材料の耐摩耗性，被削性試験及び仕土面粗さの測定等。

辻研究室 構造物の光彈性應力の測定。宮田研究室 アルマイトの利用及び性能試験。山崎研究室 26時のサイクロトン，放射能の測定及マイントープ供給と原子の研究について見學した。

最後に坂田研究室に於て合成酒の改良研究を伺い，御自慢のゴク味を味つて午後5時散會した。黒田博士に厚く御禮を申上ぐ。(田畑農夫記)